

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：13501

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K13742

研究課題名（和文）発達上の課題・困難を有する非行少年の実態と再非行防止・発達支援に関する調査研究

研究課題名（英文）Research on the actual conditions of juvenile delinquents with developmental problems and difficulties, and on prevention of reoffending and developmental support.

研究代表者

内藤 千尋 (NAITOH, CHIHIRO)

山梨大学・大学院総合研究部・准教授

研究者番号：30734074

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、発達上の課題・困難を有する非行少年の困難・ニーズの実態把握と、学校・家庭・地域における早期発達支援と非行防止支援のあり方を検討することを目的とした。

少年院での教育は、少年の成長・発達を大きく促進していたが、今後は子どもの権利条約・障害者権利条約・障害者差別解消法等の子どもの人権や発達保障が求められる。矯正教育の国際動向からも、少年院経験者の声に基づく基礎的環境整備と「ルール・処遇」の改善、合理的配慮の提供が課題である。また、少年院への学校教育の導入と発達支援体制の充実、少年の学習・発達・社会的自立の意欲を喚起し、出院後の進路の可能性を広げていくために不可欠な検討課題である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

昨今の少年法適用年齢引き下げに関する議論や児童福祉・社会的養護における支援改善の検討が議論されているなか、子ども・当事者本人の「声」（支援ニーズ）を発達支援の観点から明らかにしていくことが、少年院（教育機関、育て直し、再非行防止）や児童福祉施設の意義を示す機会となるとも考えられる。児童福祉と矯正教育・更生保護の分野を対象に、広く発達上の課題・困難を有する子どもの実態把握を行うことや、発達支援の観点から伴走的な支援のあり方と今後の特別支援教育と矯正教育の連携のあり方を検討していく点が本研究の独自性といえる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to understand the actual conditions of the difficulties and needs of juvenile delinquents with developmental issues and difficulties, and to examine how early developmental support and delinquency prevention support should be provided in schools and communities.

Correctional education in juvenile training schools has greatly promoted the growth and development of juveniles, but it will be necessary to guarantee the rights and development of juveniles in line with the Convention on the Rights of the Child, the Convention on the Rights of Persons with Disabilities, and the Law on Eliminating Discrimination against Persons with Disabilities, etc. In addition, the realization of school education in juvenile training schools and the enhancement of developmental support systems are essential issues to be considered in order to motivate juveniles to learn, develop, and become socially independent, and to expand their career possibilities after release.

研究分野：特別支援教育・特別ニーズ教育

キーワード：少年非行 発達上の課題・困難 本人・当事者 発達支援 地域移行支援 北欧諸国

## 1. 研究開始当初の背景

「非行少年の社会不適応の原因の除去と健全な育成を

目的」として処遇が行われている少年院においても、2016年6月に『発達上の課題を有する在院者に対する処遇プログラム実施ガイドライン』が全庁配布されるなど、発達障害等の発達上の課題・困難を有する非行少年の理解や適切な支援の実施が重点的な検討課題となっている。

代表者らの調査研究からは、発達障害等の発達上の困難・課題と非行の関係は決して直接的につながるものではないことが明らかとなっている。「安心・安全」に生きることができない環境要因や「育ち・発達」の機会が保障されない等、様々な負の要因が絡み合った結果の一つとして、虞犯・非行等の「不適応状態」にある彼らは発達の機会から阻害されている可能性があり、教育的ニーズは高い。(高橋・内藤・田部：2012、内藤・田部・高橋：2013、高橋：2015、内藤・高橋・法務省矯正局少年矯正課：2015、高橋・内藤・法務省矯正局少年矯正課：2016)。



少年に対する調査を通して、入院前に見られた発達困難が、少年院における安定した規則正しく構造化された生活環境の保障(住まい、食事、衣服、睡眠、入浴、生活リズム、健康管理、歯科治療など)とともに、法務教官等からの丁寧な関わりや信頼の形成を通して「生活と発達の土台」が大きく調整され、入院前の各種の発達困難が表面化しなくなっていることが確認されている(内藤・小山・佐野・田部・高橋：2018)。少年は発達課題の根本を明らかにする過程を経ると、少年が本来的に有している「主体性と発達力」が伸長し、少年自身で成長・発達を実現していく。一方で、彼らの「声」からは、少年院入院以前の家庭や学校・地域に対する想いや求めていた支援も挙げられている。少年鑑別所・少年院入院以前の学校教育や地域における早期支援の課題や、少年院等を出院後の地域移行支援及び発達支援の課題も明らかとなった。

次に、児童福祉・社会的養護分野において多様な不適応や発達上の課題・困難を有する施設に、児童心理治療施設(前：情緒障害児短期治療施設)や児童自立支援施設が挙げられる。児童心理治療施設は、平成28年の児童福祉法一部改正より、「家庭環境、学校における交友関係その他の環境上の理由により、社会生活への適応が困難となった児童を、短期間、入所させ、又は保護者の下から通わせて、社会生活に適応するために必要な心理に関する治療及び生活指導を主として行い、あわせて退所した者について相談その他の援助を行うこと」(児童福祉法第43条の2)と位置づけられている。近年の多様な発育・発達への教育的ニーズを有する入所児童に対して、日常生活と学校教育を軸に「総合環境療法」による発達支援を行う施設であり、その社会的ニーズは高まっている。

そして、児童自立支援施設や児童心理治療施設に入所している学齢期の児童生徒は、施設内分校・分教室あるいは通学により、学校教育が行われている。社会的養護として特別なニーズを抱え、特別支援教育を必要とする児童・生徒にとっての学校教育は、子どもの困難やニーズを聞き取り、必要な合理的配慮のもとで、教員により子どもに寄り添った丁寧な支援を行うことや、学校環境の整備が求められる。

発達障害等の発達上の課題・困難を有する非行少年も、安心できる環境や信頼できる他者・大人との出会いや適切な発達支援によって彼らは必ず発達していくが、発達や社会的自立に向けては本人・当事者の「声」に丁寧に寄り添い、地域や関係諸機関による長期的かつ継続的な教育や発達支援が不可欠である。

## 2. 研究の目的

先述の課題意識にもとづき、本研究は発達障害等の発達上の課題・困難を有する少年本人へのニーズ調査(少年院・児童福祉施設)、少年院及び児童福祉施設・分校分教室等教師・職員への実態調査、自立準備ホーム・更生保護施設入所者及び少年院出院者自助団体等関係者への実態調査を通して、発達障害等の発達上の課題・困難を有する非行少年が抱える困難・ニーズやそれに対する非行予防支援・地域移行支援と発達支援の課題を検討することを目的とした。

## 3. 研究の方法

### (1) 研究動向の把握及び北欧諸国における先進的実践に関する調査

先行研究のレビューを通して、国内外における少年非行と発達障害等の発達困難に関する政策、議論の動向や支援体制の状況、課題を明らかにする。とくに、「愛着障害・自傷・希死念慮」等の発達困難が顕著な女子少年院における指導・発達支援に関する研究の動向・課題に着目して作業を行う。そのうえで、発達障害少年の矯正教育・更生保護において先進的な取り組みを行う

北欧スカンジナビア諸国（スウェーデン・デンマーク・ノルウェー・フィンランド・アイスランド）の少年矯正施設・女性刑務所調査、当事者支援団体調査（非行・依存）についての調査を実施した。

（２）発達障害等の発達上の課題・困難を有する少年本人へのニーズ調査

全国の児童心理治療施設（50 か所）・児童自立支援施設（58 か所）・少年院（50 か所）等に入所（入院）する・入所（入院）経験のある発達障害等の発達上の課題・困難を有する児童生徒へのニーズ調査を実施した。

#### 4. 研究成果

少年院に在院する発達上の課題・困難を有する少年に対する長期間の継続的な面接法調査結果をもとに、少年が有する復学・進学等の修学支援ニーズ及び復学・進学等を可能にする移行支援ニーズを明らかにし、それらの支援ニーズに対応する少年院における修学支援・移行支援の現状と課題を検討した。調査結果の分析は、カテゴリー分類、「KH Coder 3.Beta.03i」(樋口：2020)、「User Local AI テキストマイニング」を用いて実施した。なお倫理的配慮として、本研究遂行に際して、事前に法務省矯正局少年矯正課及び調査対象少年院と本調査・研究統括責任者（高橋智日本大学文学部教育学科教授・東京学芸大学名誉教授）との間で協定書・研究ガイドラインを締結している。面接法調査の協力は少年本人・保護者の自由意思とし、協力の際には承諾書に署名いただいた後、面接法調査を実施している。

面接調査の結果から、少年院における教育を通して、少年らは読み書き能力の改善・向上を実感していることや、「勉強したい、知りたい気持ちが芽生えた。勉強が好きになった」こと、「苦手な勉強を初めて一生懸命頑張った」経験が、彼らの自信回復や自尊心の向上に繋がっている状況が確認された。出院後の高校等への復学や大学等の進学に係る少年の修学支援・移行支援ニーズに関わる回答からは、「大学」では考えることや学ぶことを想定していることや、その進路に向けて高等学校卒業程度認定試験を希望していること、あるいは通信制高校等への進学によってさらに大学等の進学や仕事に繋がっていきたい希望が挙げられていた。出院後に高校進学・復学や専門学校・大学等の進学を希望する回答に関連して、高校進学・復学や専門学校・大学等の進学に関する十分な情報提供や丁寧かつ具体的な就学・修学支援の充実を求めている。

「少年院在院者に対する高等学校教育機会の提供」の対象となった少年の回答からは、高校中退経験のある少年も今一度学びの機会に繋がることへの大きな希望や、高卒資格がその後の希望進路に近づく一歩であることからの強い期待が挙げられた。他方で、出院後にも継続した高校在籍・スクーリングが必要であり、支援がないと一人で取り組む自信がないことから、教育機会が提供されても学校選択の段階で悩みが生じやすいことも回答された。修学支援においては保護者と少年本人に十分な情報提供を行い、外部支援機関との連携も展望した具体的な指導・支援を行う必要がある。

発達上の課題・困難を抱える少年の多くは、学校忌避・逃避や不登校等に伴う長期間の学習空白を有しており、就労・社会的自立に必要な基礎的学力を習得できておらず、また少年院においてもその点の指導・支援が大きな課題になっている。

少年院における義務教育の内容及び高校や特別支援学校等の学校教育の導入と発達支援体制の充実、少年の学習・発達・社会的自立の意欲を喚起し、出院後の大学等への進学を含み進路や社会的自立の可能性を大きく広げ、ひいては再非行防止にも繋がる不可欠な重点課題である（高橋ほか：2022）。

少年院での処遇を通して成長・発達している少年のニーズとして、高等学校卒業程度認定試験受験等の院内での多様な学習機会のニーズが挙げられ、法務省の矯正教育関係者の聞き取りからも、院内での学校教育の提供や修学支援の必要性が認識されている（高橋ほか：2022）。

生活指導と学校教育の両面から少年の成長・発達を促していくためには、具体的に院内に高校・特別支援学校の分校・分教室の設置や特別支援学校の訪問教育等の学校教育を導入することが肝要である。

また移行支援においては、大学等の関係機関への調整のほか、多様な発達支援ニーズを有する在院者に対しては、出院後の福祉的支援を想定した障害者手帳の取得も取り組まれているが、少年院の出院後も長期的かつ継続的な支援が不可欠なケースが少なくないため、保護観察所等との連携が大きな課題となる。

修学支援では「修学支援デスク」（転学又は入学が可能な学校や利用可能な経済的支援等に係る情報収集と提供を民間の事業者委託する修学支援情報提供等請負業務）の整備やソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）による非行少年への学習支援事業（少年院在院中から出院後まで継続して最長1年間の学習支援）が行われ始めている（法務総合研究所：2023）。

上記の近年の取り組み状況をふまえ、修学支援においては、在院中から保護観察所・保護司との就学支援計画を本人と共に具体化していくことのほか、「少年院在院者に対する高等学校教育機会の提供」の対象となった出院者のその後の進路状況についての追跡調査も当面する課題といえる。

少年法改正にかかる議論にもみられるように、世論では少年本人に自己責任や早期の社会的自立を求める傾向が目立つが、代表者らのこれまでの研究結果から、例えば少年院に在院している少年のなかには家庭貧困・ひとり親家庭・各種の教育機会からの排除等の問題も相まって、十

分な愛着形成や他者との関係性を欠き、社会的参加・自立の困難を抱えている者が実に多いことが明らかになっている（高橋ほか：2020・2022）。すなわち、「安心・安全」に生きることができない環境要因や「育ち・発達」の機会が保障されない等の負の要因が絡み合った結果の一つとして虞犯・非行等の「不適応状態」になるとも言える。それゆえに少年院において自己理解、犯した行為への認識と反省、他者や社会との関係、将来の希望などについて本人の考えを丁寧に聴きながら、現実的な更生プロセスを経ることで彼らが「育ち直し」をしており、そこに少年院の矯正教育の意義がある。近年は、愛着障害・トラウマ・PTSD等の発達困難を有する少年に対する理解・対応・支援についても研修や事例検討が積み重ねられている。子ども・若者は「発達する存在」そのものであり、少年院での発達支援によって少年が成長している事実をふまえながら、少年の発達の可塑性・可能性を伸ばしていくために必要な少年院と矯正教育において当面する検討課題を明らかにしていくことが求められている。

少年院法で示される「在院者の人権の尊重」「その特性に応じた適切な矯正教育」に向けて、全ての在院者の発達支援を念頭に置く必要があるが、特に発達上の課題・困難を有する少年の処遇において、国連「子どもの権利条約」「障害者権利条約」に基づく生活環境の整備、行動や身体症状の背景にある少年の不安・緊張・ストレスの理解と「障害者差別解消法の基礎的環境整備と合理的配慮」に基づく少年院での対応方針検討、学校教育との具体的な連携に関する拡充が課題である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 14件）

1. 著者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智	4. 巻 68
2. 論文標題 少年院における発達上の課題・困難を有する少年の発達支援に係る研究動向	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 矯正教育研究	6. 最初と最後の頁 90-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 石井智也・内藤千尋・田部絢子・石川衣紀・能田昂・池田敦子・柴田真緒・高橋智	4. 巻 16
2. 論文標題 スウェーデンのインクルーシブ教育における視覚障害児教育の動向	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東海学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 137-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24478/00003838	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 石井智也・内藤千尋・田部絢子・石川衣紀・能田昂・池田敦子・柴田真緒・高橋智	4. 巻 16
2. 論文標題 デンマークのインクルーシブ教育における視覚障害児教育の動向	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東海学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 129-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24478/00003837	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 能田昂・田部絢子・石井智也・石川衣紀・内藤千尋・池田敦子・柴田真緒・高橋智	4. 巻 83
2. 論文標題 デンマークにおける病気の子どもの特別教育システムの動向 歴史的変遷と現行の特別教育制度を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 尚綱学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 17-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24511/00000575	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石井智也・田部絢子・能田昂・石川衣紀・内藤千尋・池田敦子・柴田真緒・高橋智	4. 巻 83
2. 論文標題 デンマークにおける病気の子どもの特別教育の実際	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 尚綱学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 33-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24511/00000576	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井智也・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・池田敦子・柴田真緒・能田昂・高橋智	4. 巻 81
2. 論文標題 フィンランドにおける知的障害・自閉症等の重度障害を有する子どもの短期・一時ケア施設と「生活と発達」の支援 ヴァンター (Vantaa) 市の「アルマ (Alma)」への訪問調査を通して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 尚綱学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 69-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24511/00000530	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 能田昂・田部絢子・石川衣紀・内藤千尋・池田敦子・石井智也・柴田真緒・高橋智	4. 巻 81
2. 論文標題 スウェーデンにおける障害者雇用・就労支援の動向 国営企業「サムハル (Samhall AB)」への訪問調査から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 尚綱学院大学紀要	6. 最初と最後の頁 77-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24511/00000532	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川衣紀・田部絢子・内藤千尋・池田敦子・石井智也・柴田真緒・能田昂・田中裕己・高橋智	4. 巻 20
2. 論文標題 スウェーデンにおける障害者の学び直しと生涯学習・発達の保障 「ヴェスタンヴィーク聴覚障害国民大学 (Vastanviks folkhogskola)」の訪問調査から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 長崎大学教育学部教育実践研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川衣紀・田部絢子・内藤千尋・石井智也・能田昂・高橋智	4. 巻 20
2. 論文標題 スウェーデンにおける子ども病院と病院内教育の実際 スtockホルム市「サクス子ども病院」の訪問調査から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 長崎大学教育学部教育実践研究紀要	6. 最初と最後の頁 11-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・石川衣紀・田部絢子・石井智也・能田昂・内藤千尋・池田敦子・柴田真緒・田中裕己	4. 巻 102
2. 論文標題 スウェーデンにおけるインクルーシブ教育と知的障害特別学校の役割 スtockホルム市の二つの基礎特別学校の訪問調査から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本大学文理学部人文科学研究所研究紀要	6. 最初と最後の頁 183-193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内藤千尋・田部絢子・石井智也・石川衣紀・能田昂・池田敦子・高橋智	4. 巻 32
2. 論文標題 スウェーデンにおける精神障害者の地域ケア 精神障害当事者支援組織「フォンテンヒュス・フェンダール支部 (Fontanhus Skondal)」の訪問調査から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 山梨大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 39-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34429/00005070	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内藤千尋・田部絢子・石井智也・能田昂・石川衣紀・高橋智	4. 巻 32
2. 論文標題 スウェーデンにおける多様な発達困難を有する子ども・若者の発達支援 「BRIS (Barnens Rätt i Samhället : 社会における子どもの権利)」の訪問調査から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 山梨大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 51-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34429/00005071	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川衣紀・田部絢子・石井智也・内藤千尋・能田昂・高橋智	4. 巻 8
2. 論文標題 アイスランドの特別ニーズ教育システムの動向 - アイスランド教育科学文化省の訪問調査から -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 長崎大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 43-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・内藤千尋・田部絢子	4. 巻 67
2. 論文標題 少年院在院者の支援ニーズからみた少年院・矯正教育の検討課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 矯正教育研究	6. 最初と最後の頁 104-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・内藤千尋・田部絢子	4. 巻 131巻4号
2. 論文標題 少年院における発達上の課題・困難を有する少年への面談・発達相談の試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 刑政	6. 最初と最後の頁 42-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤千尋・石川衣紀・田部絢子・高橋智	4. 巻 4
2. 論文標題 北欧の刑務所における発達困難を有する若者受刑者の特別ケアの動向 フィンランドとノルウェーの刑務所訪問調査から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 松本大学教育総合研究	6. 最初と最後の頁 117-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 内藤千尋・田部絢子・石川衣紀・池田敦子・石井智也・柴田真緒・能田昴・田中裕己・高橋智	4. 巻 4
2. 論文標題 フィンランドにおける多様な発達困難を有する若者支援の動向 「ユースセンター」の訪問調査から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 松本大学教育総合研究	6. 最初と最後の頁 109-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋智・内藤千尋・田部絢子	4. 巻 66
2. 論文標題 ノルウェーにおける依存症を親にもつ子ども・若者の当事者支援 当事者支援組織「Barn Av Rusmisbrukere」の訪問調査から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 矯正教育研究	6. 最初と最後の頁 81-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 少年院における発達上の課題・困難を有する少年に対する発達支援の動向
3. 学会等名 日本矯正教育学会第58回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 池田敦子・田部絢子・石井智也・内藤千尋・能田昴・石川衣紀・柴田真緒・高橋智
2. 発表標題 デンマークにおける肢体不自由(運動障害)教育システムの動向 インクルーシブ教育における肢体不自由(運動障害)特別学校・学級の意義と役割
3. 学会等名 日本特殊教育学会第60回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋智・田部絢子・石井智也・石川衣紀・能田昂・内藤千尋・池田敦子・柴田真緒
2. 発表標題 スウェーデンにおける病気の子どもの教育ケアの動向
3. 学会等名 日本特殊教育学会第60回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 能田昂・田部絢子・石井智也・内藤千尋・石川衣紀・池田敦子・柴田真緒・高橋智
2. 発表標題 デンマークにおける病気の子どもの教育ケアの動向
3. 学会等名 日本特殊教育学会第60回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 少年院と学校教育の連携・協働の現状と発達支援の課題 少年院在院少年のニーズ調査から
3. 学会等名 日本教育学会第80回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 少年院における発達困難を有する非行少年の矯正教育と発達支援の課題 法務省矯正局「発達上の課題を有する在院者に対する処遇プログラム実施ガイドライン」の視点から
3. 学会等名 日本特殊教育学会第59回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・高橋智
2. 発表標題 少年院における学校教育保障の課題 少年院在院少年のニーズ調査から
3. 学会等名 日本矯正教育学会第57回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 内藤千尋・田部絢子・石井智也・石川衣紀・能田昂・池田敦子・高橋智
2. 発表標題 スウェーデンにおける精神障害者の地域ケア 精神障害当事者支援組織「フォンテンヒュス・フェンダール支部 (Fontanhus Skondal)」の訪問調査から
3. 学会等名 日本特別ニーズ教育学会第27回研究大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 内藤千尋	4. 発行年 2021年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 280
3. 書名 発達障害等を有する非行少年と発達支援の研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関